

1 津山市重点取組

津山市立河辺小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまづき解消	①学方向上担当 者②各担任 ③研究担当・PTA・ 保護者	①全国学力調査や岡山県学力調査の問題分析から見える授業改善についての研修を定期的に行い授業改善を目指す。 ②各学年で問題分析を受けての授業改善に取り組む。特に主体的・対話的な授業づくりをする。 ③岡山型学習指導のスタンダード(考え表現する時間の確保、まとも、ふりかえり 特に家庭学習と授業のつながり)の定着を図る。	①8月末までに ②年間を通じて ③年間を通じて	①全職員で問題を実際に解くことで問題の傾向を把握したり、児童のつまづきや誤答の原因を分析したりすることで、どのように授業改善を図っていくか考え、学校全体で共通して改善に向けた取り組みを行う。 ②授業公開を積極的に行う。公開授業だけでなく、日常的に授業を見合い(「見て見て週間」を学力担当が設定する)、交流する。 ③研修時間を利用した学校全体での家庭学習の内容や量の交流をし、授業と家庭学習がつながりを意識するようにする。児童に家庭学習の成果が実感できるようにする。また、家庭学習強化週間(家庭学習振り返りカード学期2回程度)の設定をする。	①②国語や算数の授業が分かりやすいとアンケートで肯定的に答える児童の割合が90%以上にする。 ③家庭学習を家庭の目標時間行う習慣を身に付けさせる。(80%以上)
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	①各学年担任 ②生徒指導担当 ③特別活動(児童 会担当) ④研究担当	①情報モラルの授業を計画的に行うとともに実態や現状に合わせて随時指導していく。 ②スマホ等に関するアンケートの実施や保護者への情報提供。 ③児童会や代表委員会でスマホやメディアについて取り上げる。 ④自主学習の定着や内容の充実を図る。	①年間を通して ②年間を通して ③12月末までに ④年間を通して	①児童のスマホやメディア等のアンケートの結果をもとに指導を行う。 ②スマホ等の使用の実態把握のためのアンケートを学期に1回程度実施する。学級懇談会やお便り等で使用する資料づくりをする。 ③アンケートの結果を受けて、児童の実態に合わせた取り組みを運営委員会を中心に代表委員会で話し合い、取り組みを実施してみる。 ④自主学習ノートを提示したり、良いノートの提案をしたりする。担任だけでなく管理職や担当からコメントをもらうことで児童の意欲付けをする。	①②③スマホやメディアにかかわるルール作りをしている家庭の割合を100%にする。 ④自主学習に進んで取り組む児童の割合を80%以上にするようにする。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国6年</p> <p>○国語については、県平均と同じ正答率であり、算数については、県平均に比べて正答率が高い。</p> <p>○国語においては、接続語を用いて2文に分ける:本校61.9%(全国47.8%) 漢字(かんしん):本校14.3%(全国35.6%) 意図をとらえながら自分の考えをまとめる:本校59.5% 無回答率21.4%(全国68.2% 無回答率14.2%) といった特徴がある。</p> <p>○算数については、6+0・5×2の四則混合式の理解:本校69.8%(全国60.1%) 1あたりの量の理解:本校48.8%(全国52.1%) 必要な数量を選び立式:本校80.5%(全国68.6%) といった特徴がある。</p> <p>県(3~5年)</p> <p>○3年 国語・算数の2教科とも全国に比べて正答率が高い。</p> <p>○4年 国語については全国に比べて正答率が高く、算数はやや下回るが、県平均よりは高い。</p> <p>○5年 国語・算数の2教科とも全国に比べて正答率が低い。</p> <p>○特徴的な傾向を示した設問は、</p> <p>・3年国語 説明文読み取り:正答率65.8%(全国52.6%) 算数 数の大小・不等号:正答率52.6%(全国29.1%)</p> <p>・4年国語 2段落構成の作文:正答率43.8%(全国51.4%) 算数 分数の理解:正答率64.6%(全国80.8%)</p> <p>・5年国語 2段落構成の作文:正答率30.0%(全国60.6%) 算数 小数第2位÷整数:正答率38.8%(全国63.3%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が55.8%であり、全国(66.1%)に比べて低い。</p> <p>○全く家庭学習をしない割合が4.7%であり、全国(2.3%)に比べて高い。</p> <p>○テレビ等の視聴時間が平日1時間以上の割合が88.6%で、県(78.6%)に比べて高い。</p> <p>○テレビゲーム等の平日1日当たりの時間の割合が61.3%で、県(56.1%)に比べて高い。</p> <p>○「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合は14.0%で、全国(38.8%)や県(41.6%)に比べて低い。</p> <p>○「将来の夢や目標を持っている」児童は79.1%で、全国の65.9%に比べて高い。</p> <p>○1日当たりの読書時間(1時間以上)の割合が16.3%で、県(18.3%)と同程度だが、「読書が好き」という児童の割合は65.1%で、全国(75.0%)に比べて低い。</p> <p>○「朝食を毎日食べている」児童は、全国や県の上回っている。</p> <p>○「学校に行くのは楽しい」児童の割合は86.1%で、全国(84.1%)や県(85.9%)でほぼ同程度である。</p> <p>○「先生によいところを認めてもらっている」児童は県や全国の割合よりやや低い。</p> <p>○「学級みんなで話し合っで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」児童の割合は69.8%で、全国(84.1%)や県(85.9%)の割合に比べて低い。</p>

成果
<p>○ほとんどの学年や教科で、全国や県の平均を上回る結果が見られた。</p> <p>○下回った学年や教科でも経年で比較すると伸びが見られる。</p> <p>○国語の授業づくりの研究、校内での指導法の共通理解などが成果を上げたと考えられる。</p> <p>○「1日」や週末チャレンジや過去問への丁寧な取り組みが成果を上げたと考えられる。</p> <p>○児童の記述問題や複雑な問題への対応力が学校全体で少しずつ上がってきている。</p> <p>○国語の「書く」問題の正答率が上がっている。</p>

課題
<p>○5年生を中心に、前学年までの振り返りや定着がまだ不足している。問題データベース等を活用して前学年までの継続的・定期的な復習が必要である。</p> <p>○設問が要求している条件に合わせた解答が出来ていない解答が多くみられた。</p> <p>○記述問題では、考え方や答え方をうまく表現できずに誤答となる場合が多くみられた。</p> <p>○低学年での積み上げ(算数の3ケタの計算、時間や時ご、漢字や漢字の書き順等)がさらに必要である。</p> <p>○ゲームやネットに関わる時間が非常に長い児童が見られ、課題となっている。さらなる家庭との連携が必要。</p> <p>○「きまりを守る」ことが出来ていない児童が多いのも依然として課題となっており、改善が必要。</p> <p>○自己肯定感が低い児童が多い。学級や学校全体での取り組みや家庭との連携がさらに必要である。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
国語の授業で授業スタイルの共有化・共通化をさらに高める。(主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善)	2学期中	○1年から6年の各学年の物語・説明文の単元の記述時期を確保し、各自重点単元を決めて、授業づくりに取り組む。 ○教科を読む楽しさを児童と共感する。	・外務講師を今年度も招き、校内研修の中で振り返し共通理解を進める。(さらに主体的・対話的な授業づくりをめざす。) <p>・自分で決めた重要単元で授業づくりを工夫し、公開授業や指導研修のTT授業等で実践・習熟する。岡山県型学習スタンダードの徹底も進める。</p> <p>・新出漢字・語彙等はモジュールで定着まで図り、国語は読む力・書く力を養う。</p>					
低学年での積み上げを継続してさらに強化する。	今年度中(2学期中、3学期中)	○1~2年生の書読・作文・計算の徹底した定着。 ○5年生を中心に、各学年重要事項の定着。	・各学年の重要事項はふり混ぜる学習を心がけ取り組む。 ・個別的に書読・暗唱・計算練習などに取り組ませる。児童学年の取り組みも活用する。 ・Bトレプリント・データベースを使って補充学習をする。書くことの方法を指導する。					
家庭学習の定着と充実	2学期中	○1年から6年の各学年 学年×10分+10分の家庭学習。 ○自主学習に進んで取り組む。	・うさかめカードによる学期2回の家庭学習とメディアチェック。 ・前単元・前学年までの振り返りの内容も含めた家庭学習の工夫。 ・週末チャレンジなど、思考力表現力を養う内容も取り入れる。 ・自主学習の好事例を全学年提示し、習熟を図る。 ・家庭学習の成果や意欲などを保護者へ伝える機会を設定する。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%組)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上60%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組
<p>○小中間の授業公開や児童生徒の情報交換を行う。</p> <p>○新たに教科ごとの部会を開くことにより、教科に特化した情報交換を行い、授業改善を図る。</p> <p>○中学校区での共通した取り組みをチャイムスタート、無言入場、掃除など規律ある学校・授業づくりを目指す。</p>

保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○家庭学習のスタンダードを基に学級懇談や学年通信などで呼びかけをし、家庭における学ぶ環境づくりを進める。</p> <p>○うさかめカードの取り組みを活用して親子で関わる時間を設定する。</p> <p>○スマホ等の使い方やノーメディアの取り組みをPTAを巻き込んで行う</p>